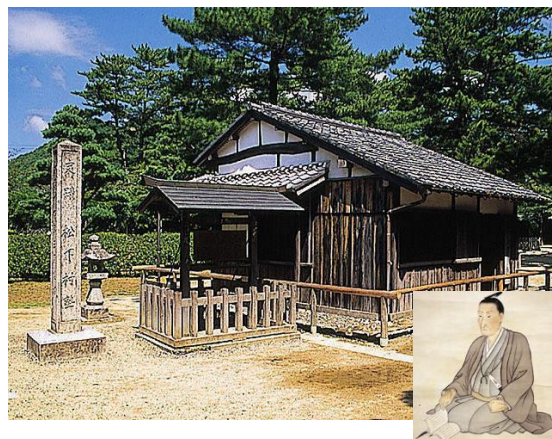


# あおい通信 第130号

## 日本の世界遺産めぐり その十九 明治の産草遺産③ (文化遺産)



松下村塾と吉田松陰



江戸時代末期(幕末)

江戸時代末期(幕末)に、長州萩城下の松本村(現在の山口県萩市)に存在した私塾である。吉田松陰が同塾で指導した短い時期の塾生の中から、幕末より明治期の日本を主導した人材を多く輩出したことで知られる。

一八四二年(天保十三年)に松陰の叔父、玉木文之進が八畳一間の私塾を開き松下村塾と名付け、松陰も入塾した。文之進の指導は非常に厳格なもので、松陰が授業中、顔にとまった蚊を払って殴られた話が伝わる。ついで松陰の外叔、久保五郎左衛門がその名を継承し、塾生の教育にあたった。松下村塾は武士や町民など身分の隔てなく塾生を受け入れた。藩校明倫館は、士分と認められた者しか入学できず、町・農民はもちろん、武士に仕えながら卒(卒族)、軽輩と呼ばれた足軽・中間なども入学できなかった事と対照的であった。一八五七年(安政四年)

より明倫館の塾頭を務めていた吉田松陰が同塾を引き継ぐ。名簿は現存しないが、塾生は約五十名ほどいた。著名な門下生には、倒幕の志士の総元締の役割を果たした久坂玄瑞、吉田稔麿、入江九一、寺島忠三、またこれらの人々の死後に、藩論を倒幕にまとめ幕府軍を打ち破った高杉晋作がいた。一識の高杉才の久坂と称され、「松下村塾の双壁」と呼ばれた。また、この二人に吉田稔麿を入れて松陰門下の三秀と言い、さらに入江九一を合わせて「松下村塾の四天王」と称された。これら直門の高弟の衣鉢を継いで、末弟子の伊藤博文、山縣有朋、品川弥二郎、山田顕義、野村靖、松本鼎、岡部富太郎、正木退蔵らは、明治新政府の首脳とな

り明治期の日本を担った。桂小五郎(後の木戸孝允)は塾生ではないものの、明倫館時代の松陰に兵学の教えを受けている。井上馨はよく松下村塾の塾生と間違えられることが多いが、高杉・久坂らと関わりは深いものの松陰の教えを直接うけたことは無い。また乃木希典は玉木家の親戚にあたり、塾生ではないが一時玉木家に住み込んで文乃進から指導を受けた。講師には松陰の他に富永有隣がいる。一八五八年(安政五年)松陰が野山獄に再投獄され、また幕末動乱期に至って塾生の多くが地元を離れたため中絶した。慶応二年にいったん再開し、馬島甫仙、河合惣太等が教授にあたる。明治四年

### 世評・時評

百年前にアインシュタインが存在を予言し、世界の研究者が観測を目指していた「重力波」を米国の研究チームが二月十一日初めて観測したと発表した。重力波は、時間や空間がわずかに伸び縮みする「時空のひずみ」がさざ波の様に伝わる現象で、物体が加速して動く時に起こる。最終的に確認されれば理論が実証された事になり、物理学の歴史的な成果となり、光や電波では判らない宇宙の姿を探る新たな天文観測にも道が開ける。アインシュタインが一九一六年に一般相対性理

論から予言していたが、その観測は「最終の宿題」とされ、物理学の長年の悲願だった。重力波はあらゆる運動で生じるとされるが、極めて微弱で通常は観測できない。研究チームは米国の二カ所にある装置「LIGO」の性能を大幅に高め昨年九月から今年一月上旬まで観測、分析作業を進めていた。発表によると、昨年九月十四日、地球から十三億光年離れた二つのブラックホールが合体した時に出土と見られる重力波を十分な精度で検出でき、物理学誌「サイエンス」に論文を掲載した。一般相対性理論で示し

た宇宙像「宇宙は拡張する」「光が重力を曲げる」は、人々の常識を根底から崩すものだった。「時空のひずみが波として伝わる」という重力波もその一つだ。予言は観測によつて一つずつ実証されてきたが、ついに克服される日がきた。まだ一つの研究チームの速報であり検証作業は残るが、人類は「重力波天文学」という宇宙を知るための新たな手段を手にするようになる。重力波による多分野への研究が進む事を願う。K・ドラゴン



朝、鏡に向かかって、私は私に言うのです。お早う御座います。今日も明るく笑顔で元気で行きましょう。昨日も今日も私は私、同じなんです。変わりないのです。そう思つて明るく生きて居る癖に心躍らせましよう。年齢(とし)を忘れる事にして居るのです。人がどう思つても、私は私の儘ままなのです。心若く居ればきつと若く見える筈です。皺(しわ)だって恥ずかしがって隠れて終うか

もしれません。何時までも美しくと思う気持ちには誰も同じだとおもいます。でも元々美しい人ばかり居る訳では勿論有りません。人はそれぞれ違うのです。しかし思い方一つで随分変わるものなんです。思い方を変えましょう。私つてもしかりたら?何てちよつと自信を持つちよつたりして、可愛いかも?優しいそうかも?そうかも?で良いのよ。そしてお洒落しちゃうの。派手な綺麗な色を思い切つて何処かに一つ身につけるの。それだけで何だか華やいだ気持ちに成れるかも?

3月度行事の予定  
18日(金)カラオケ  
27日(日)総会。イベントも予定し、楽しい会にしたいと思つていきます。(事務局長)  
◆編集委員会より「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで  
そうよ自分を少し騙すのよ。兎に角若さを保つて心丈夫に元気で生きてみましよう。

### 葵友の会 広報コーナー

#### 2月度行事の結果

17日(水)第30回麻雀大会。ベイベにて。久々に3卓での開催。優勝は初参加の松倉さんでした。記念大会なので、参加賞の盾と記念品、お菓子も配られました。



# 利用者さんの 綴りコーナー

## 田中 善吉(月)

ドライブが好きです。例えば、好きなコースをあげると、関越でトンネルを抜けると山梨。そこから善光寺に行つて、アルプス展望広場から白馬がきれいに見えます。



## 南雲 コノ(土)

十八年間、東京駅にあるお店で元気に働いていました。園芸が好きで、花はいつまで見ていてもあきません。



## 湯村 孝治(月)

運動はあまり好きではないですが、少しでもよくなりたいたいと思ひ、リハビリをがんばつています。少しずつ皆さんとお話できればいいと思ひます。



# なんでも落語講座・四 絹田治夫

## 落語寄席ガイド

『気軽でお得なライブ会場 毎日公演の落語定席』  
寄席という言葉は、「人寄せ席」からきているといわれる。その発祥当時から、芝居小屋などと比べて手軽に楽しむことができる庶民の娯楽スペースだったのが、落語が伝統芸能といわれる様になった現在、寄席に対してやや敷居の高さを感じている人も少なくない。しかし、常識的なマナーさえ守れば、とりたてて注意すべきルールはなく、構えずにふらりと入つても十分楽しめるもの。入

# 東大泉に伝わる行事 前篇 橋本廣子

此処、東大泉という所は昔、東京府北豊島群大泉村土支田字久保(現在の東大泉一丁目〜三丁目)にまたがる部分)であった。昭和七年に東京三十五区が出来て板橋区に編入された。戦後占領軍の地方自治制度改革の指令に依り、都は三十五区を二十二区に統合し、二十二年三月に成立したが、練馬方面は依然として板橋区であった。東大泉から板橋区役所迄は遠く、交通の便も悪く一日掛りであったとか。練馬区の住民は納得せず、代表者が占領軍総司令部へ

に分かれていたことが多く。また、大の月の三十一日は余った一日ということから「余一会(よいちかい)」と呼んで、特別興行が組まれることがある。ほとんどの寄席は学割が効き、又スタンプを規定数集めると一回の入場料を無料にしてくれたり、着物を着て来た人には入場料を割引してくれるサービスもある。さらに夜席の仲入り以後は入場料を割引するところも有る。知れば知るほど、行けば行くほど落語に興味がわく場所が寄席です。



## ふわふわ亭わび助

陳情に行つたこともあり、様々な困難を経て、昭和二十三年八月一日東京都二十三番目の特別区として練馬区が誕生した。その時東西南北の大泉町が出来た。その後、住居表示制度が変わり、東大泉一丁目一番一号となり、東西南の大泉町の「町」はなくなり、何故か北大泉は北大泉町となった。この久保に百年以上も続いている「久保十二日講」と「御園稲荷の御歩謝(おびしき)」というのがある。古いのは稲荷の方らしいが広範囲の組織は十二日講の方なのでこれについて書いてみようと思ふ。

そもそも久保十二日講

# あおい俳壇・致壇

「腰いたいわ」 今相応かと 思いきや  
なんのなんのよ 妻の立居よ  
老々で 分ち合いたし 何ごと  
それをさせない わが身の反抗  
鈴樹清明

看護師の 刻一刻を まらわびる  
春の嵐の 吹きすさぶ中  
麻生伊登子

平年の 寒さに安堵 することも  
夜に入りて 止まざる雪の 恐ろしき  
福山淳一

のびのびと ボール蹴る 子等(こら)  
冬帽子  
歌仲間  
マスクして 話も弾む 歌仲間  
青空に 秩父連山 雪景色  
相田美代子

# 生涯のスポーツ(水球) 橋本 靖

思えば、約六〇年前の昭和三〇年、高校一年の時、初めて水球という競技に出会いました。水球が好きになった私は、プールの有る高校を探して入学しました。水球を行っている高校は、当時、十校くらいしかありませんでした。一年、二年と基礎から練習に励み、三年の時、第十二回、静岡国体に東京代表として出場し、インターハイでは全国三位になり、大学への道が開けました。明治大学に入学すると、全国から優秀な選手が集まってきたので、レギュラー入りが大変でした。当時の世相は日本も高度成長の兆しがみえるようになり、

# 雑学館

アイスクリームについているウエハースの役割  
レストランなどで出てくるアイスクリームには、ウエハースが上品に添えられていることがあるが、これをスプーン代わりに使うのはNGだ。ウエハースは、アイスの冷たさを和らげるために乗せられているものなので、アイスとウエハースを交互に食べるのが正しいマナーなのである。

五輪で歴史に残る事件がありました。一九五六年、メルボルン大会時に、ハンガリーに対するソ連の武力弾圧に選手が自国の誇りを守ろうと、プールが血で赤く染まるような大乱闘になり、後に「メルボルンの流血戦」と誇張された報道になりました。私はこの激しいスポーツである水球の競技を後輩に指導し、育て、やがて、世界に通じる選手を輩出する事が自身の役割と思ひ、大学の監督となり三〇年間指導してきました。スペインのバルセロナに出向き、一か月以上滞在して練習試合をしたり、イランに選手を連れて行つたりしました。

つづく